

加盟校御中

### 安土での安全確保に関するお願い

加盟校の皆様におかれましては、平素より本連盟の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

令和の新時代を迎えるにあたり、本連盟は学生弓道の発展に向けて決意を改めるとともに、加盟校の皆様をお願いを申し上げます。

弓道が危険を伴う競技である認識を共有して、安土での安全管理の徹底を改めて図っていただきたいです。

というのも現在本連盟には約 1 万人の学生射手が所属しております。その全員の練習環境を本連盟が網羅的に把握することは難しく、各加盟校内部での安全に対する意識の統率は不可欠です。具体的には、以下に注意していただきたい点を列挙いたしますので、各加盟校内で改めて共有をお願いいたします。

#### ①安土に人が出ているとき

全員が看的小屋に入るまで取り懸けは待ってください。

#### ②行射中に誤って安土に人が出たとき

立を組んでの練習中、あるいは試合中であっても引き戻しをさせてください。会のまま待機させることはやめてください。また、特に新入生など初学者につきましては、その危険性について丁寧な説明をお願いいたします。また、安土に出るまでにまだ行射中であることを射場から伝えられる方法を設定してください。

#### ③対外試合での安全管理

複数の大学で試合を行う際、安全管理の方法が異なる場合があります。同じ合図が違う意味をもつこともあり、大学内での練習時より事故が起きる可能性は高くなります。特に注意してください。また、試合開始前に必ず、お互いの安全管理の方法を伝え合ってください。

また、この他にも、安全管理について必要があればルールの再検討をお願いいたします。以下、参考として東京都の一橋大学で採用している方法を挙げます。資料の一つとなれば幸いです。

一橋大学道場は矢取り道が大落側にあるため、矢取りに行く人は大落の射手が取り懸けていないことを確認してから矢取り道を通ります。看的小屋に入った後、全員が行射を終えたことを確認して看的小屋の中で二拍手します。道場内にいる練習責任者（正規練習と自主練習において監督する上級生 1 名）が「お願いします」と声をかけ、看的小屋にいる人は道場まで聞こえる声量で返事をしてから安土に出ます。4 月から 6 月にかけて、新入部員が練

習に参加する際は、必ず上級生が付き添い前を歩きます。看的小屋の中での二拍手をするタイミングの確認も上級生が行います。仮に、誤って行射中に二拍手してしまった場合、道場から「一本」などと引いている本数を伝えます。全員が引き終えたのを確認して改めて道場から「お願いします」の声をかけます。対外試合においては、事前に矢取り交渉を行い、主導校（その大学の方法に従って、矢取りを行う）を確定させたうえ、円陣を組んで部員全体にその方法について共有します。

以上、今後の学生弓道の益々の普及、学生射手のさらなる躍進の礎として、安全管理についての加盟校の皆様のご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。